

第1回小楠作業部会（わいわいサミット）議事録

開催日時：令和8年7月6日 18時～19時30分

開催場所：小楠コミュニティーセンター 集会室

参加者

A	B	C	E	F
4名	4名	5名	5名	5名

- 地域福祉計画および地域福祉活動計画の策定
事務局より、中津市における「わいわいサミット」の開催目的として、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画策定が説明された。
- 地域福祉計画は行政による施策目標を定めた法的な計画であり、地域福祉活動計画は住民やボランティア、社会福祉協議会などが主体となり、市内15の地区ごとに具体的な目標や行動を決定する実践的な計画であると説明。これらは、高齢化や希薄化した地域関係により孤立する住民の問題に対処し、誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するために今年度10月頃までの完了を目指して話し合いが持たれる。
- アイスブレイクとして、各グループの参加者は互いの名前や住んでいる地域の魅力を共有した。
- **グループワーク①**
- **地域の強みの可視化:**「地域を花とりんごでいっぱいになろう」というワークショップテーマを提示し、参加者は花型の付箋を使用して、住んでいる地域の良さや強み（病院や小学校の近さ、地域の防災訓練、住民同士の挨拶、環境の良さなど）を自由に共有した。
- **他グループとの意見交換:**作成した地域の強みマップを他のグループと見せ合う時間を設け、各地域でどのようなポジティブな側面が評価されているかを相互に確認した。
- **グループワーク②**
- **理想とする地域像の検討:**黄色いりんごの付箋を使用し、参加者自身が将来住みたいと思う地域のイメージ（隣近所との良好な関係、便利なインフラ、緑豊かな環境など）を出し合う個人ワークを実施した。
- **地域住民の多様性の確認:**誰もが住みやすい地域を考えるために、地域にはどのような人々が住んでいるか（高齢者、単身者、外国人労働者、子育て世帯など）を議論し、参加者同士で地域住民の多様性を再認識した。

- **多様な住民にとっての住みやすい地域づくり:** 最後に赤いりんごの付箋を使用し、先に挙げた多様な住民が住みやすい地域にするためにどのような工夫や展望が必要か（地域活動への参加促進、情報共有の改善など）を議論した。
- **地域づくりのテーマと方針:** 本日のグループワークのテーマとして「地域を花でいっぱいにする」ことを掲げ、特に若者世帯が住みやすい住宅の提供の重要性について言及した。議論においては、住民から出された意見を施設、交通、コミュニティセンター、人間関係や地域環境といったカテゴリーに分類して整理する方針が示された。
- **住民からの意見と地域課題の整理:** 参加者から出された意見として、子育て世代への情報提供（ホームページや配布資料）、困りごと相談窓口の設置、地域の挨拶や交流を通じた環境づくりなどが挙げられた。また、高齢者の働く場所の確保や、地域活動を通じた時間の使い方についても議論された。
- **既存の福祉・交通制度の現状:** 申請に基づくゴミ出し支援制度やデマンドタクシーなど、既存の制度を有効活用し継続していくことの重要性。
- **グループ発表の実施要領:** 各グループに「住みたい地域」「地域にいる人」「みんなにとって住みやすい地域」の3点について発表を求めた。発表は各グループから2〜3個ずつを選び、他グループと重複しないように調整が行われた。
- **相互支え合いと地域理解:** あるグループは、地域でのゴミ出し問題などのトラブルを防ぐために、住民同士が互いを知り、支え合う関係性の構築が不可欠であると発表した。
- **施設整備と相談環境:** 店舗の減少に対する便利な買い物施設の確保や、交通の便、犯罪のない安全な環境の必要性を指摘した。また、プライバシーに配慮し、安心して相談ができる環境づくりが重要であると述べた。
- **地域の活性化と交流:** 病院や商業施設などの利便性確保に加え、移住者の受け入れや、高齢者と子供が交流できる環境づくり、住民が協力して地域を創り上げることの重要性を強調した。
- **包括的な地域支援:** 別のグループは、障害者やひきこもりの状態にある人々を含め、精神的・身体的に誰もが悩み相談できる場所の必要性を提案した。また、地域の発展に貢献してきた高齢者と、将来を担う子供たちが共に住みやすい環境づくりを目指すべきであると提言した。
- **ハードとソフトの両面からのアプローチ:** 住みやすい地域づくりには、道路や図書館、デマンドタクシーなどの「ハード」な面と、相談窓口や地域での繋がりといった「ソフト」な面の両方が必要であると総括した。

- **次回の計画と取り組み:** 今回の議論を「地域福祉計画」および「地域福祉活動計画」へ反映させる方針を示した。次回は、描いた理想の地域を実現するために、どのような役割分担や協力体制が必要かという具体的な検討を行う予定。